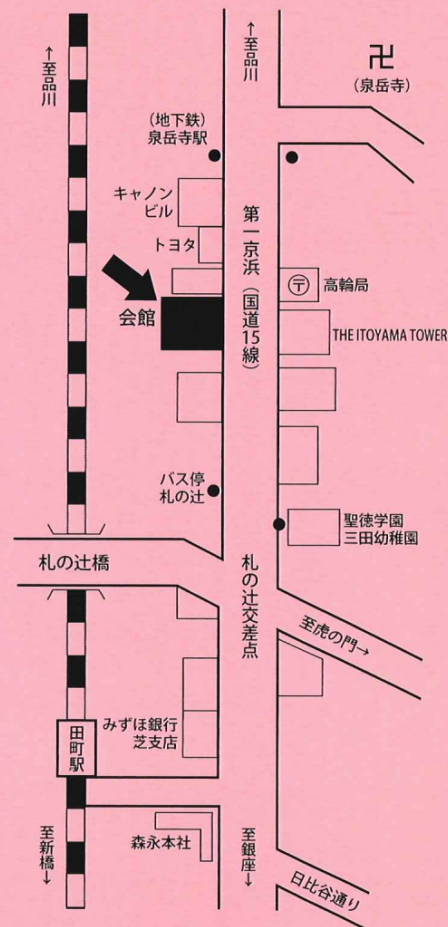


Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

来場歓迎・入場無料

全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会

●令和元年度



菅川記念会館

〒108-0073 東京都港区三田三丁目12番12号 TEL.03(3454)5062

(最寄駅) ●JR田町駅(三田口)より徒歩約10分
●地下鉄都営浅草線、泉岳寺駅より徒歩約7分

- とき 令和2年2月9日(日)
午前9時30分開場・10時開会
- ところ 菅川記念会館国際ホール(裏表紙参照)

主催

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

公益財団法人 日本吟剣詩舞振興会

〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-4-10虎ノ門35森ビル7階
電話 (03) 6721-5950 (代表)
FAX (03) 6721-5960

大会次第

- | | |
|------------|----------------------|
| 一、開会の辞 | 一、競演「劍舞の部」 |
| 一、国歌斉唱 | 一、競演「詩舞の部」 |
| 一、財団会詩合吟 | 一、審査講評 |
| 一、財団代表挨拶 | 一、審査結果発表並びに 入賞者表彰 |
| 一、大会実施要項説明 | 一、閉会の辞 |
| 一、審査委員紹介 | |

- (注意)
- | | |
|----------|-------|
| 一、役員集合 | 九時〇〇分 |
| 二、審査委員会議 | 九時三〇分 |
| 三、出演者集合 | 九時四〇分 |
- 時間厳守

令和元年度全国剣詩舞群舞コンクール
決勝大会開催にあたって

価値ある伝統芸道

の祭典



(公財) 日本吟剣詩舞振興会

会長 沼崎 富

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会主催令和元年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会が、本日、ここに盛大に開催される運びとなりましたこと、関係者共々深く喜びとするところであります。本大会のために、早朝からご来場いただきました皆さまに對しまして深く敬意を表しますとともに、いろいろと準備のために奉仕してくださいました大会役員のかたがたに對しましても深く感謝申し上げます。

剣詩舞は、吟詠の調べに合わせて詩歌のこころを心技を

財団法人日本吟剣詩舞振興会全詩

世川良一作

朝に吟く舞うて心身と錬り
 礼節持し来て互に真と養う
 世界は一途 皆我友
 願わくば斯道と興して人倫を正さん

世川良江書

もって表現するものであり、わが国の伝統芸道の中でも、今までの民族精神の形成に大きな役割を果たしてきたばかりでなく、これからのわが国の精神文化の高揚においても大きな期待をかけられている芸道であります。

当財団の主催する剣詩舞群舞コンクールは、この剣詩舞道の本質を追究し、併せて芸道としての向上を図るとともに、斯道のよりいっそうの振興と普及を目的として、全国的レベルで行なうものであります。

出場者の皆さまには、日ごろの精進の成果を十分に発揮され、ご希望いたしますとともに、ご来場の皆さまにおかれましては、吟剣詩舞道の今日像を正しく理解され、ますます斯道に親しまれますようお願い申し上げます。

最後に、皆さまのご健康を祈念して私の挨拶といたします。

令和元年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会役員

大会会長 沼崎 富
大会副会長 八文字 剛 洲

大会実行委員 青柳 芳寿朗
広渡 英治 大田 直樹
山内 正風 多田 正稔
黒田 秀月 宮川 紫朋
山本 賀陽 山口 華雋

☆審査委員

審査委員長 青柳 芳寿朗
特別審査委員 内田 寿子
審査委員 多田 正稔 黒田 秀月
田村天聖月 藤上 翔山
早淵 鯉将 入倉 昭山
山本 兼正
菊川八千穂
杉浦 英容

☆大会特別顧問

菅原 雪山 入倉 昭星
工藤 龍堂 小幡 神叡
藤原 摂楠 矢萩 鳳祥
前島 昊龍 松岡 萌洲
廣重 光風 日置 彩峰
杉浦 容楓 増田 鵬泉
山路 泰洲 横山 寿城
田口 實風
坂本 徹星
武田 禧洲
野中 秀鳳
畑中 景心
小野光翠扇
山岡 哲山
福永 瀧壺
益中 鵬山
八代 輝壺
多田 正満
田中 岳藤

☆大会参与

横山 精真 黒田 秀月
宮川 紫朋 鈴木 海洲
柳原 静芳 矢澤 風慶
石川 春洋 横田 岳理
佐々木朝鵬 菱谷 彩佑
梶 風映 勝部 吼嶺
中澤 春誠 甕 経風
寺嶋 城靖
久保田正峰
菊池 吟正
星野 紫虹
小林 北鵬
梅澤 昌峰
奥脇 嶽津
栗野 電擘
松永 悠楓
鈴木 凱山
志塚 心将
森川 精修
阿部 吟鳳
薦田 南尚

白男川 冽風 高橋 瑞祥
(県連代表)

畑中 景心 梅田 錦翠 阿部 清心 斉野 岳城
寺嶋 城靖 立身 岳元 舘岡 奥鵬 宮川 紫朋
栗野 電擘 高橋 瑞祥 一條 岳皇 黒田 秀月
久保田正峰 鈴木 海洲 甕 経風 沼崎 星翁
毛塚 静精 横山 精真 小松 獅劍 飯田 報信
深浦 精正 白井 寛洲 松澤 天楓 前濱 錦城
渡邊 皇洲 後藤 娟桜 堀口 孝心 中谷 将鳳
山田 静将 横山 寿城 松谷 國章 北川 哲水
松島 南洲 宮野 鶴誠 大本 翠山 高木 法洲
佐藤 翔風 神田 清峰 徳田 寿風 安永 江悠
山下 明穂 竹内 岳南 笠井 栄俊 赤峰 郁霊
松本 豊旺 藤本 誠堂 松川 岳匠 向山 侑吟
日向美代峰 金城 岳周 松川 岳匠 向山 侑吟

◎総務委員長

同 副委員長 水谷 貴洲 魚住 仲水 林 錦柳
同 委員 永田 春濤 相田 華鐘(医務担当)

◎資材管理委員長

同 委員 鈴木 洲玉 黒川 錦桜 荒井 剛嶺 鈴木 誠敬
蓑田 元洲 八幡 景洲

◎庶務委員長

同 副委員長 毛塚 静精 木村 鳳鶴 松村 伯玲

◎詩舞受付委員長

同 副委員長 山下 神橙 齋木 彩染 中島 園心 長嶋 契学

◎剣舞受付委員長

同 副委員長 後藤 月戈 土澤 美岳 岡 眺蘭

◎連絡委員長

同 委員 三橋 吟煌 福田 劔鵬 横山 吟瑤 横山 吟嵩
横山 吟友

◎司会委員長

同 副委員長 清水 錦洲 田中 国臣 奥津 春溪

◎同 委員 今村 契鉦

◎広報委員長 渡 精華

◎同 副委員長 秋山 精正

◎舞台委員長 石井 誠紀

◎同 副委員長 武藤 嶺栄

◎同 委員 前島 義邦

◎会場委員長 小峯 晃苑

◎同 副委員長 久保 峯國

◎音響委員長 小林 岳章

◎同 副委員長 林 煌成

◎同 委員 湯口 岳政

◎集計委員長 熊木 雪洲

◎同 副委員長 河上 麗風

◎同 委員 加茂 媛鵬

◎接待委員長 寺山 天洲

◎同 副委員長 原 契如

◎賞典委員長 丹治 独風

◎同 副委員長 鈴木 吟亮

◎同 委員 黒田 聖岳

◎賞状作成委員長 室橋 谿月

◎同 副委員長 石井 錦文

◎同 委員 吉田 恵樹

◎大会本部事務局

事務局長 大田 直樹

事業課長代理 大塚 政暢

総務係長 鶴町 和成

杉本 豊翠 滝本 紫苑

池田 嶺煌 田中 竜真

小林 千容

椿 谿友

令和元年度全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項

(1) この「コンクール」は、わが国の伝統芸道である剣舞・詩舞

道に親しむ一般並びに青少年に、日ごろの剣詩舞道精進の成果を競う場を与えると同時にすぐれた剣詩舞道人を発掘し、これを表彰して斯道の向上と普及・発展を図ることを目的とし、この「全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会実施要項」に基づいて実施する。

(2) 「コンクール」のチーム編成は左のとおりとする。

① 一チームの編成は剣舞3名、詩舞5名とする。

② 一チームのメンバーは、流派、会派等同じくすること、ただし年齢・性別は問わない。

③ 同一人が二つ以上のチームに属することはできない。

(3) 申し込み条件及び申し込みの方法

財団加盟の流派、会派等に所属する者とし、チーム代表者の所属する県総連に申し込み、県総連が各地区連協に申し込むものとする。

▽各地区連協出場団体数

| 剣舞の部 詩舞の部 | 北海道 | 東北 | 東日本 | 中部 | 近畿 | 中国 | 四国 | 九州 | 計 |
|--------------|-----|----|-----|----|----|----|----|----|----|
| 0 | 0 | 0 | 5 | 5 | 5 | 6 | 3 | 3 | 1 |
| 0 | 0 | 5 | 5 | 5 | 6 | 3 | 3 | 3 | 1 |
| | | | | | | | | | 23 |
| | | | | | | | | | 22 |

(4) 決勝大会の出場チームは公益財団法人日本吟剣詩舞振興会が

主催し、その運営を各地区連絡協議会に委嘱して行なわれた(5)項の予選大会に出場して入賞し選出されたものであり、「プログラム」に記載されたチーム以外のとび込みは許されない。ただし、地区予選大会を実施しなかった地区については、当該地区連絡協議会の推薦によるものとする。

(5) 地区予選大会の名称とその包含地域

I 北海道地区大会 (道央・道南・道北・道東・北紋)

II 東北地区大会 (青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島・

新潟)

III 東日本地区大会（山梨・群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・

神奈川・東京）

IV 中部地区大会（静岡・愛知・長野・富山・石川・福井・

岐阜・三重）

V 近畿地区大会（滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山）

VI 中国地区大会（岡山・広島・山口・鳥取・島根）

VII 四国地区大会（香川・愛媛・徳島・高知）

VIII 九州地区大会（福岡・大分・佐賀・長崎・宮崎・熊本・

鹿児島・沖縄）

(6) 全国剣詩舞群舞コンクールの地区大会及び決勝大会の出場料は剣舞二二、〇〇〇円。詩舞二〇、〇〇〇円とする。

出場料は原則として返還しない。ただし、メンバー全員が幼少年（十八才未満）で構成されるチームについては決勝大会の出場料を免除する。

(7) 決勝大会の審査委員は公益財団法人日本吟剣詩舞振興会本部常任理事会で選定し、委嘱されたものである。

(8) 出場チーム演舞のルール

し、原則を著しく逸脱している場合は、減点の対象とする。

IV 舞台照明……地あかりのみ、バックはホリゾン（白色）使用を原則とする。

V 演舞の要領……①司会者が出場チームの番号、代表者氏名ほか、吟題を紹介、一呼吸おいてテープが流される。②出場は上手、下手、板付いずれでもよい。また、そのタイミングも司会者の出場紹介が始まってからならいつでもよい。③振り付けは前奏、後奏を含めた全体でもよいし、詩文のみでもよい。ただし、採点の対象は、舞台出場から退場までの間の出場者の演技及び立居振舞とする。演舞終了時、舞台にある振り付けの場合でも立礼は必要としない。

(9) 「コンクール」の審査要領

I 審査基準は当財団「剣詩舞コンクール審査規定」を適用する。

II 審査の基本方針は、剣舞・詩舞は吟詠の調べに合わせて詩歌のころを演技をもって表現する芸道である。斯道の本質を踏まえ、芸としての向上を図るうえで不可欠なものは詩歌

I 出場順……申込後、厳正公平な抽選で決定したプログラム順とする。変更は特別の事由に基づき、大会実行委員長が認めたものでないかぎり許されない。ただし、それも出場部門の競演実施中に限られる。

II 演舞吟題……指定吟題の中からあらかじめ届け出たものとし、予選、決選とも同じ演舞吟題とする。なお、その吟は財団本部作成の「平成三十一年度吟剣詩舞道吟詠集」テープ及びCDを使用する。

III 衣裳と持ち道具

剣舞……①衣裳は紋付など和服、または稽古衣、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②足袋及びたすきの着用は自由とする。③持ち道具は、武器及び扇子などとする。

詩舞……①衣裳は和服、はかま着用とし、なるべく簡素化したものとする。②持ち道具は自由とし、なるべく簡素化したものとする。③扇子の型状、色彩などは自由とする。以上の原則に準じている場合は減点の対象としない。ただ

のころを正しく理解する素養と、その技術的表現力、芸術的表現力である。この前提に立って審査の項目及び配点を、次のように設定する。

A 技術的表現力（50点配点）

① 基礎技量……30点 ② 錬磨度……20点

B 芸術的表現力（50点配点）

① 詩心表現力……30点 ② 舞台表現……20点

(10) 審査除外（失格）

I 遅刻、指定テープ外演舞、演舞放棄、その他審査委員長が失格と認めた場合。

II 審査結果発表並びに入賞チーム表彰時に出場者本人が不在の場合。

(11) 全国大会の入賞チーム数と表彰

I 剣舞は一位から五位まで、詩舞は一位から五位までとし、会長賞その他を左記の通り授与する。

剣舞の部 一位 会長賞（持ち回り杯）・金メダル

詩舞の部

- 日本財団会長杯
 二位 会長賞・銀メダル
 三位 会長賞・銅メダル
 四位～五位 会長賞
 一位 会長賞(持ち回り杯)・金メダル
 日本財団会長杯
 二位 会長賞・銀メダル
 三位 会長賞・銅メダル
 四位～五位 会長賞

II 出場者全員に参加賞を授与する。

III 各部一位入賞チームは第五十二回全国吟剣詩舞道大会に於

て、全国剣詩舞群舞コンクール優勝チームとして出場する機会を与える。

(12) 過去の決勝優勝チームメンバーは同部門のコンクールに再出場することはできない。

「剣舞の部」

◎令和元年度
群舞コンクール指定吟題

〈剣舞〉

- 1 一の谷懐古 (梁川星巖)
 2 前兵児の謡 (頼山陽)
 3 白虎隊 (佐原盛純)

〈詩舞〉

- 1 桜花の詞 (作者不詳)
 2 天草洋に泊す (頼山陽)
 3 小田原懐古 (鈴木豹軒)

| 出演順 | 氏名 | 所属 | 演題 | 成績 |
|-----|-------------------------|----|-------|----|
| 3 | 高橋 岸本直子 | 岡山 | 前兵児の謡 | |
| 2 | 齋藤 優雅 高橋 樹生 | 群馬 | 白虎隊 | |
| 1 | 大里 彩乃 水谷 有希 高島 望花 | 大阪 | 一の谷懐古 | |

| 出演順 | 氏名 | 所属 | 演題 | 成績 |
|-----|-------------------------|----|-------|----|
| 6 | 永田 菜桜 建部 有咲 | 愛知 | 白虎隊 | |
| 5 | 鈴木美知子 多嘉良銀太 | 東京 | 一の谷懐古 | |
| 4 | 竹内 彩夏 竹内 峻真 竹内 美貴 | 千葉 | 一の谷懐古 | |

| 出演順 | 氏名 | 所属 | 演題 | 成績 |
|-----|-------------------------|----|-------|----|
| 9 | 稲葉 友希 今井 敦子 | 兵庫 | 前兵児の謡 | |
| 8 | 磯島 広海 尾花 恭子 | 大阪 | 前兵児の謡 | |
| 7 | 高橋 宏徳 高橋 英誠 高橋 克徳 | 徳島 | 白虎隊 | |

(13) 一般注意事項

- ① 出場時、刀の目釘の確認。
 ② 楽屋・ロビー等で刀を抜いてのけいこは禁止する。

(14) 「コンクール」進行中の拍手、声援、私語雑談及び大会本部許可の報道関係者並びに記録班以外の会場内での写真撮影、ビデオテープ及びハミリ等の録画は禁止する。
 (15) 入賞チームの表彰時の服装については、出演衣裳で臨んでいただくことがいちばん良いが、着替えた場合にも礼を失しないよう注意を払っていただきたい。

※「後奏振付の注意点」

コンクール終了時間の遅延をふせぐため後奏の振り付けについては、次の点にご留意いただくことになっておりますのでご注意ください。
 一、後奏いっばいの振り付けの後、あらためて退場姿勢に入った場合は減点もありうる。
 二、後奏が終わった時点で、出場者が舞台上にあっても退場途中であればよい。

| 23 | | | 22 | | | 出演順 |
|-------|------|------|-------|------|------|-----|
| 河村裕子 | 河村恵里 | 河村真里 | 松坂界良 | 田中太陽 | 高橋博之 | 氏名 |
| 兵庫 | | | 群馬 | | | 所属 |
| 一の谷懐古 | | | 一の谷懐古 | | | 演題 |
| | | | | | | 成績 |

| 12 | | | 11 | | | 10 | | | 出演順 |
|-------|------|------|-------|------|-------|-------|------|------|-----|
| 堀真悠子 | 堀由起子 | 入倉仁美 | 本田亜梨子 | 前田容良 | 川喜田宗久 | 永瀬健一 | 王田浩之 | 藤島永治 | 氏名 |
| 愛知 | | | 三重 | | | 岡山 | | | 所属 |
| 一の谷懐古 | | | 一の谷懐古 | | | 前兵児の謡 | | | 演題 |
| | | | | | | | | | 成績 |

| 26 | | | | 25 | | | 24 | | | 出演順 | | | |
|-------|-----|-----|-------|--------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|----|
| 吉川真央 | 柴田梨 | 永井聡 | 佐野利恵子 | 島田千尋 | 山野英子 | 吉岡洋子 | 奈良とみ | 福井好美 | 高井多津美 | 森田博子 | 遠藤三千代 | 新田智子 | 氏名 |
| 愛知 | | | | 香川 | | | 徳島 | | | 所属 | | | |
| 小田原懐古 | | | | 天草洋に泊す | | | 桜花の詞 | | | 演題 | | | |
| | | | | | | | | | | 成績 | | | |

「詩舞の部」

| 15 | | | 14 | | | 13 | | | 出演順 |
|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|-----|
| 安藤翔 | 増井康二 | 増井章高 | 敷津颯介 | 山田明穂 | 本城愛実 | 杭田雷威 | 杭田永遠 | 犬飼秀文 | 氏名 |
| 兵庫 | | | 大分 | | | 岡山 | | | 所属 |
| 一の谷懐古 | | | 白虎隊 | | | 前兵児の謡 | | | 演題 |
| | | | | | | | | | 成績 |

| 29 | | | | 28 | | | 27 | | | 出演順 | | | |
|------|------|-------|-------|-------|------|------|------|-------|------|------|-----|------|----|
| 岡利実子 | 奥田悦代 | 安井美智子 | 松永みどり | 小川北杏奈 | 中嶋実季 | 中嶋博人 | 中嶋将之 | 米澤三知子 | 杉浦悦子 | 小西幸子 | 谷幸紀 | 茶谷良美 | 氏名 |
| 岡山 | | | | 福井 | | | 奈良 | | | 所属 | | | |
| 桜花の詞 | | | | 小田原懐古 | | | 桜花の詞 | | | 演題 | | | |
| | | | | | | | | | | 成績 | | | |

| 18 | | | 17 | | | 16 | | | 出演順 |
|-------|------|-------|-------|------|------|-------|-------|------|-----|
| 佐々木悠介 | 柴田和都 | 杉浦きよ乃 | 松本文 | 菅富士子 | 友井川友 | 藤田友里恵 | 丸岡真由子 | 竹田光一 | 氏名 |
| 愛知 | | | 兵庫 | | | 東京 | | | 所属 |
| 一の谷懐古 | | | 一の谷懐古 | | | 前兵児の謡 | | | 演題 |
| | | | | | | | | | 成績 |

| 32 | | | | 31 | | | 30 | | | 出演順 | | | |
|------|------|------|------|--------|-------|-------|------|-------|------|------|-------|------|----|
| 神田芽依 | 神田満香 | 神田理帆 | 渡邊祐史 | 福井広子 | 大江千鶴子 | 福嶋知津子 | 中川和子 | 森川由美子 | 小嶋昌子 | 大槻礼枝 | 菊田富美子 | 押尾綾子 | 氏名 |
| 静岡 | | | | 兵庫 | | | 東京 | | | 所属 | | | |
| 桜花の詞 | | | | 天草洋に泊す | | | 桜花の詞 | | | 演題 | | | |
| | | | | | | | | | | 成績 | | | |

| 21 | | | 20 | | | 19 | | | 出演順 |
|-------|------|------|-------|------|------|-------|------|-------|-----|
| 富田麻友香 | 中田有咲 | 石川姫麗 | 吉田幸生 | 吉田悠人 | 吉田郁夫 | 武内美佐代 | 岡崎真紀 | 中野日佐子 | 氏名 |
| 愛知 | | | 徳島 | | | 高知 | | | 所属 |
| 白虎隊 | | | 前兵児の謡 | | | 一の谷懐古 | | | 演題 |
| | | | | | | | | | 成績 |

| 出演順 | 35 | 34 | 33 | 出演順 |
|-----|---|---|--|-----|
| 氏名 | 加藤 浩巳 加藤 亜希子 山本 保子 河野 三重子 福島 沙織 | 宮田 あかね 山戸 春季 高橋 未帆 神野 仁美 柑本 明日香 | 長澤 美咲 塩見 規美 八木 秀美 畑直 美子 小田 林範子 | 氏名 |
| 所属 | 東京 | 愛媛 | 京都 | 所属 |
| 演題 | 桜花の詞 | 桜花の詞 | 天草洋に泊す | 演題 |
| 成績 | | | | 成績 |

| 出演順 | 38 | 37 | 36 | 出演順 |
|-----|---|---|--|-----|
| 氏名 | 山田 幸代 中山 みさを 灘部 鈴子 小谷 野弘子 梅園 はつ | 上岡 雅治 上岡 隆生 小倉 萌 堀木 咲良 加藤 凜 | 友井川 睦子 友井川 泰子 友井川 真佐美 大石 知頭子 友井川 慈 | 氏名 |
| 所属 | 東京 | 三重 | 兵庫 | 所属 |
| 演題 | 桜花の詞 | 桜花の詞 | 桜花の詞 | 演題 |
| 成績 | | | | 成績 |

| 出演順 | 41 | 40 | 39 | 出演順 |
|-----|--|---|--|-----|
| 氏名 | 鶴田 詩乃 鶴田 詩織 荒崎 詩織 森内 爽介 森内 介 | 上寺 邦子 杉本 典子 榊本 礼子 澁田 依子 山本 雅江 | 永富 大樹 北村 仁学 濱田 大輝 古村 虹輝 岡村 舞 | 氏名 |
| 所属 | 神奈川 | 広島 | 大分 | 所属 |
| 演題 | 桜花の詞 | 天草洋に泊す | 小田原懐古 | 演題 |
| 成績 | | | | 成績 |

| 出演順 | 44 | 43 | 42 | 出演順 |
|-----|--|---|--|-----|
| 氏名 | 山名 千鶴子 三宅 美登里 阪口 キミ子 井本 勝美 中垣 良美 | 大本 ヨシ子 谷口 恵津子 藤岡 洋子 若本 未知恵 山本 千代美 | 西浦 実輝 建部 花実 野田 璃珠 大日方 心海 森大 凜華 | 氏名 |
| 所属 | 兵庫 | 広島 | 愛知 | 所属 |
| 演題 | 桜花の詞 | 天草洋に泊す | 天草洋に泊す | 演題 |
| 成績 | | | | 成績 |

| 出演順 | 45 | 出演順 |
|-----|---|-----|
| 氏名 | 山口 保子 染谷 栄子 児玉 シズ子 石川 明美 橋本 由貴子 | 氏名 |
| 所属 | 茨城 | 所属 |
| 演題 | 小田原懐古 | 演題 |
| 成績 | | 成績 |

予 告

●第四十八回全国少壮吟詠家

審査コンクール決選大会

▽とき 令和二年三月八日(日)

▽ところ 笹川記念会館

(東京都・港区三田)

●令和二年度全国名流吟剣詩舞道大会

▽とき 令和二年五月五日(祝日)

▽ところ 熊本城ホール

(熊本県・熊本市)

●令和二年度夏季吟道大学

▽とき 令和二年六月二十七日(土)

▽ところ 成田東武ホテルエアポート

(千葉県・成田市)

月刊『吟と舞』購読のお願い

月刊誌『吟と舞』は、指導者および一般愛好者の皆さんに不可欠の吟剣詩舞道界の幅広い情報誌として、また、教養誌として発行されています。

購読料は年間五、〇〇〇円(送料込)です。お申し込みは、公益財団法人日本吟剣詩舞振興会事務局『吟と舞』係あて、購読料を添えてお申し込み下さい。

どなたでも購読できます。どうぞ、お気軽にお申し込み下さい。

全国剣詩舞群舞コンクール決勝大会優勝チーム一覽表

昭和六十年年度

〈剣舞の部〉

小野 尊由
八木 保博

(兵庫)

〈詩舞の部〉

瀧 吉治
小野真智子
原 京子
大持恵美子
米倉 啓子
石原 明子

(兵庫)

昭和六十二年年度

〈剣舞の部〉

入倉 幸一
城所 紀彰
長谷川勝生

(愛知)

〈詩舞の部〉

亀井 美乃
安藤 裕嗣
堺 友紀
亀井 秀明
安藤 由記

(愛知)

平成元年度

〈剣舞の部〉

加司 和博
西村 朗子
山田 満稀

(大阪)

〈詩舞の部〉

石原 明子
小西 悦子
酒井 玉美
松本 房子
松本 桂子

(兵庫)

平成三年年度

〈剣舞の部〉

杉浦 裕美
建部 司

(愛知)

〈詩舞の部〉

藤上 佳子
田中 佳子
中島 祥子
宇野 智美
片山 陽子

(岡山)

平成五年年度

〈剣舞の部〉

林 季永子
山口加奈子
尾崎 里恵

(愛知)

〈詩舞の部〉

長坂 紗織
長坂恵里子
関 みのり
荒谷早智子
淡谷 亮太

(愛知)

平成九年年度

〈剣舞の部〉

大道 学美
辨天 繁和
多田 和晃

(大阪)

〈詩舞の部〉

蟹江 功子
佐々木京子
大野 晶子
長坂 理絵
鈴木 宏実

(愛知)

昭和六十一年年度

〈剣舞の部〉

安藤 裕嗣
安藤 由記
堺 友紀

(愛知)

〈詩舞の部〉

杉浦 裕美
天野 利香
中村 里抄
今井喜久子
大日方里美

(愛知)

昭和六十三年年度

〈剣舞の部〉

広田 光次
村田 栄一
滝川 知昭

(愛知)

〈詩舞の部〉

田中小枝子
岸本 晴美
秋山 愛子
中尾 章子
川口由紀子

(岡山)

平成二年度

〈剣舞の部〉

森下 裕紹
伊藤 由康
伊藤 修司

(愛知)

〈詩舞の部〉

入倉 幸一
城所 紀彰
長谷川勝生
鈴木 一人
永井 基靖

(愛知)

平成四年度

〈剣舞の部〉

熊谷 公江
中神 友佳
中野 琴子

(愛知)

〈詩舞の部〉

建部 司
大岡 史帆
山本 智美
石渡 千紘
岡本菜穂子

(愛知)

平成七年度

〈剣舞の部〉

近藤 聡司
近藤 敦司
淡谷 亮太

(愛知)

〈詩舞の部〉

森下 裕紹
伊藤 由康
伊藤 修司
中神 友佳
中野 琴子

(愛知)

平成十一年度

〈剣舞の部〉

伊藤 明
伊藤 武
亀田 功治

(愛知)

〈詩舞の部〉

小野 藍子
田辺富士子
田辺 小泉
田辺 文
原 優子

(兵庫)

平成十三年度

〈剣舞の部〉

大岡 史帆
長坂 紗織
荒谷早智子

(愛知)

〈詩舞の部〉

長澤 仁美
松本 幸子
神藤 沙紀
松本 典子
阿部 沙織

(愛知)

平成十七年度

〈剣舞の部〉

長澤 仁美
松本 全伸
阿部 沙織

(愛知)

〈詩舞の部〉

原 歩
梶原いづみ
平田 陽子
三宅 絢子
坂本 夏樹

(岡山)

平成二十一年度

〈剣舞の部〉

永井 聡多
永井 謙
高橋 聖史

(愛知)

〈詩舞の部〉

近藤 聡司
柴田きよ乃
神尾 龍
宮崎亜由美
蟹 靖子

(愛知)

平成二十五年年度

〈剣舞の部〉

石渡 千紘
長坂恵里子
中川 真生

(愛知)

〈詩舞の部〉

秋久 真希
鈴木恵美子
山本亜矢子
永岡 澄子
松尾 祐子

(岡山)

平成二十九年年度

〈剣舞の部〉

上岡 雅治
上岡 隆生
堀木 咲良

(三重)

〈詩舞の部〉

古田 里子
見城 真弥
宇津木三子代
恒松 綾子
山下 聖乃

(静岡)

平成十五年年度

〈剣舞の部〉

大野 晶子
鈴木 宏実
長坂 理絵

(愛知)

〈詩舞の部〉

入倉 仁美
山本 薫
山本 直子
川野 佳代
石川 公江

(愛知)

平成十九年度

〈剣舞の部〉

入倉 眸
入倉真之将
入倉慶志郎

(愛知)

〈詩舞の部〉

中川 真生
服部 幸海
服部 怜海
中川 真理
服部 佳海

(愛知)

平成二十三年度

〈剣舞の部〉

大津 知紀
浦野 佳奈
高橋 勝男

(兵庫)

〈詩舞の部〉

今脇 眞弓
内藤 栄子
高原 玉江
甲本美恵子

(岡山)

平成二十七年年度

〈剣舞の部〉

鈴木 一人
白石 健太
桜井 京子

(愛知)

〈詩舞の部〉

沓川 桃子
神尾 舞
安藤 優
野田 麗乃
西浦 碧

(愛知)

令和二年度全国剣詩舞コンクール指定吟題

☆剣舞

(幼年・少年の部)

- 1 九月十三夜陣中の作 (上杉 謙信)
- 2 将に東遊せんとして壁に題す (釈 月性)
- 3 日本刀 (大鳥 圭介)

(青年・一般の部)

- 1 稲叢懐古 (太宰 春台)
- 2 八幡公 (頼 山陽)
- 3 易水送別 (駱 賓 王)
- 4 剣 客 (賈 島)
- 5 和歌・身はたとひ (吉田 松陰)

☆詩舞

(幼年・少年の部)

- 1 桜祠に遊ぶ (広瀬 旭荘)
- 2 山 行 (杜 牧)
- 3 和歌・ほろほると (行 基)

(青年・一般の部)

- 1 弘道館に梅花を賞す (徳川 景山)
- 2 立山を望む (国分 青厓)
- 3 春 月 (菅 焦 鄰)
- 4 廬山の瀑布を望む (李 白)
- 5 和歌・ほのぼのと (詠み人知らず)

吟剣詩舞道憲章

詩歌は人の心の表現であり、すぐれた詩歌は人類文化の遺産である。われわれの先達は、この詩歌を吟じ、その吟により舞うことを考え、芸としての向上進歩を目ざして精進努力を重ね、吟詠・剣舞・詩舞というわが国独自の高雅な芸道を育てあげた。

吟剣詩舞道は礼と節を、その心とする。詩歌に親しんで情操を高め、日本民族の心を探究しながら自己の陶冶を志向するこの芸道こそ、わが国の精神文化の高揚に不可欠のものである。

われわれは、この価値ある吟剣詩舞道を受け継いだことに大きな誇りをもつと同時に、各人の研鑽と相互の協力によってますます斯道を隆盛に導く責任を果たさなければならない。しかも、その実践は、この芸道の心、すなわち礼と節の上にたたなければならぬ。その軌範として、この憲章を制定する。

昭和五十年一月十一日

公益財団法人日本吟剣詩舞振興会

会長 笹 川 良 一

ほか 役員一同

一、基本姿勢

吟剣詩舞道を行なう者は、礼と節とを行動の軌範とし、日々、芸の研鑽と品性の陶冶に努める。

二、指導者の心構え

吟剣詩舞道を指導する者は、みずから師たるにふさわしい人格、識見を備え、指導全般にあたっては權威をもって臨む。

三、師に対する心構え

吟剣詩舞道を学ぶ者は子弟の礼節をわきまえ、秩序を堅持する。

四、分家・独立

吟剣詩舞道を行なう者が分家・独立する場合は、その組織を代表する者の許しを得る。

五、他流との関係

吟剣詩舞道を行なう者は他流の名譽を傷つけ、秩序を乱すような言動は厳に慎しむ。

六、吟剣詩舞道の普及向上

吟剣詩舞道を行なう者は、大衆性と芸術性とを併せもつ斯道の今日像を正しく伝え、特に青少年層における吟剣詩舞道の普及向上に努める。

七、吟剣詩舞道の目標と相互の協力

吟剣詩舞道を行なう者は、相互に協調、互譲の精神をもって斯道の普及振興に協力し、本会の認める姉妹団体とも動物有機体的団結をもつて日本の伝統に基づく国家社会の正しい発展に寄与する。